

## 地球に優しい環境に取り組み — 地域社会の発展とお客様と共に70年 —

会川 文雄 (あいかわ ふみお / 会川鉄工株式会社 代表取締役)

### はじめに

当社は昭和21年に創業した。製缶、鋳鉄、銅合金鋳物の生産販売を行う会社である。この地域は福島原子力発電所から35～40kmの距離にあるため、田舎の産業としてほとんどの福島の企業が原子力関連の仕事に携わっていた。当社も震災前には原子力関連の仕事もやっていたが、放射能など環境への問題も解決されていないことから、再生可能エネルギー、太陽光事業に取り組んだ。震災以降は地区と連携し再生可能エネルギー事業に取り組んでいる。

### 3. 11東日本大震災

会社を設立して70年ほど経つが、2011年3月11日東日本大震災で会社は大きく変化した。当社の工場は海から100mほど離れたところがあり、津波により大きな被害を受けた。幸いにも、従業員は無事に避難できたが、工場の機械は大きな被害に合い、電気系統もやられ、3ヶ月水道が止まった。当社は介護事業も行っており、海岸沿いに介護施設を持っていたが、これも津波ですべて持って行かれてしまった。さらに地震2日後の13日には、福島第一原子力発電所が事故を起こしたという報道を受けた。これにより従業員が全国へと散り散りに避難することになり、とても復興という状況ではなかった。私は工場に留まり、これから復興について考えた。3ヵ月後には徐々に従業員が戻り、復興のために全国から多く

の方にも協力していただいた。皆様には本当に感謝している。

### 震災後の取り組み

原子力発電所の事故を受け、私どもの原子力関係の仕事も完全にストップした。これからどうしようか考えていた時、福島県で再生可能エネルギー100%を実現するという事業が立ち上がり、それに協力しようということになった。

昨年4月に福島県郡山市に産業技術総合研究所という太陽光発電・風力発電・地熱発電の研究施設が作られ、その中で300Kw風力タワーを会川鉄工で製作した。タワーの直径は3.6m、長さは40m、胴体の厚みは18mm、重さは30tになる。福島県では初めての風車のタワー製作、高度な技術と品質が要求されるものの製作を行った。これは福島県の地元テレビでも報道されて注目を集め、また県内外からの見学会も行った。



震災前、福島県内の再生可能エネルギーは点在する程度だったが、現在は、県内で2030年までに100%の再生可能エネルギーを目指し、太陽光発電592万kWと風力発電1225万kWの導入を計画している。太陽光発電はある程度導入が進んでいるが、風力発電は、技術を海外からの輸入に頼っており進んでいない状況である。そこで、福島県いわき沖で世界で初めての浮体式洋上風力の建設が始まり、2011年に大学や企業の協同で2000kWの風力発電が設置された。復興のために福島の企業が携わるということで、期待されている事業の一つである。現在、当社では7000kWの洋上風力発電の設置に取り組んでいる。

風力発電を誘致することで2万人程度の雇用が期待される。福島県いわき市を何とか復興したいという思いがあった。国内では風力発電機の生産が行われていないことから、風力発電を作っていくにあたり、ドイツのブレーマーフェン社の視察も行った。そこでアドバイスを受け、当社は、風力発電機を製造した。



当社では太陽光発電も取り組んでいる。福島県では、夏場の高温や冬場の降雪により発電効率が下がる。そこで日本大学と連携し、地中の安定した温度を利用し、雪を溶かした

り、熱を冷やしたりする装置を開発した。これはドイツエネルギー見本市にも出展し、多くの企業から興味を持っていただいている。福島の復興には、原子力発電所の廃炉の期間短縮が重要ということで、廃炉ロボットの作成にも力を入れている。3月には災害用ロボットが完成した。また、山林火災が起きた際にポンプを輸送するロボットを研究開発している。廃炉に向けて中小企業がいかに連携し協力できるかということが重要である。そこでフランスで廃炉の研究施設を訪問し、技術提携をしている。福島第一原子力発電所では1日400tの廃炉水が出ている。この処理装置と同じ実験装置を当社で作成し企業に納入している。

こうした当社の取り組みが注目され、2014年10月には復興大臣の訪問をうけ、説明させていただいた。メディア等に色々な取り組みを紹介していただいた。

## おわりに

まだまだ福島の復興は完全ではないが、私たち地域の中小企業が力を合わせ、一刻も早く福島が復興し、全国に避難している若い方たちが帰ってこられるよう、福島が風化しないよう頑張っていきたい。

